

つなぐ・ささえる・リードする 宮城県総合教育センター

どんなに寒くても春は近づいてきているようです。

近所の神社にある梅の木の花も赤みが増し、間もなく開花を迎える季節となりました。

2月19日は二十四節季の一つ「雨水」。空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶けて水になる、という意味があるそうです。しかし、この週末も雪が降ったり暖かい陽射しがさしたりとまさに三寒四温を思わせる天気でした。

先週水曜日に久しぶりに昨年までお世話になっていた宮城県総合教育センター（以下センター）での長期研修発表会に参加させていただきました。センターから附属小にご招待をいただいていたので、今回は学校の代表として参加させていただく機会を得ました。

本当は慣れ親しんだアクセス線で行きたかったのですが、午後に学校評議員会が予定されていたので自家用車で行くことにしました。センターは『まなウェルみやぎ』の中にあります。ここは教育・保健福祉分野のさまざまな課題に対応し、県民サービスの向上を図るため、「総合教育センター」「美田園高等学校」「子ども総合センター」「中央児童相談所」および「リハビリテーション支援センター」を一カ所に整備した教育・福祉複合施設として、平成25年4月に供用を開始しました。

本当はその1年前に開所の予定でしたが、東日本大震災の影響で1年開所が延期になりました。センターのキャッチフレーズは「つなぐ・ささえる・リードする」。センター内には約60名の指導主事が勤務し、教育の最前線として研修会の企画や新たな教育課題に対する研究など、教育に関するありとあらゆる分野について研究しています。また、所属が小学校・中学校・高等学校の出身者で構成されているので、小学校の先生と高校の先生が机を並べて仕事をしているのもここでは当たり前の光景でした。センターの指導主事の先生方と一緒に仕事をさせていただいて感じたことは、みなさんとにかくよく勉強していることです。指導主事ですから先生方に指導を

することが仕事です。それが自分の専門のことであればよいのですが、専門外を指導しなければならないこともあります。でも「私はやったことはないの」とは言えません。分からないなりにもできること、それは時間をかけて勉強することに他なりません。いくつになっても勉強です。

ルイ・アラゴンの言葉に「学ぶとは心に誠実を刻むこと。教えるとはともに希望を語ること」があります。謙虚になって学ぶ姿勢を持ち続けることが改めて大事であることを感じた1年でもありました。長期研修発表会に参加させていただき、プログラミング教育や防災、ICT活用から最新の授業作り、毎年数多くの素晴らしい研究成果を送り出しているセンターの研究をうらやましく思う反面、附属に戻ってくると、やっぱり自分の居場所はここだ、と思います。それはここには大好きな子どもたちがいるからです。

金曜日に1年1組の部内授業を参観させていただいて、子どもたちにしっかりと学習の積み重ねが見られる姿に感心させられました。次の学年に引き継ぐ前だからこそ、学習や生活のきまりをもう一度原点に戻って全員で確認していきたいものです。

